



子どもものの発達が気にならなく、 ありませんか。

「落ち着きがない」「友達とうまく遊べない」「読む、書く、計算が極端に苦手」など、子どもの発達に不安を感じていることはありませんか。乳幼児期の成長には個人差があり、不安の多くは成長に伴って解消するものです。

しかし、これらの原因が「発達障害」という脳機能の障害であることがあります。

市は今年4月、こども発達支援センターを開設し、発達障害のある子どもたちへのサポートを始めました。今月号では、発達障害とはどのような障害なのか、そして「こども発達支援センター」ではどのような業務を行っているのかを紹介します。

問い合わせは、こども発達支援センター（☎321・1351）へ。



インタビュー

五位野 岳史さん

大人になった僕が 今、子どもたちに伝えたいこと

発達障害などの子どもたちが通う児童デイサービスで働く青年がいます。自身も発達障害と診断されながら、自立して生きる五位野岳史さんに話を聞きました。

プロフィール

児童デイサービス施設「そらまめ」(江木町)で子どもたちの療育に携わる。自らの経験を基に発達障害を知ってもらうため、昨年から講演も行っている。吉井町塩川在住の30歳。

自分にブレーキをかけ やがてひきこもり

小学生のときは、少年野球をやっていた。友達もたくさんいました。でも中学校に入学してから、だんだん友だちとの付き合いがうまくいけなくなりました。悪気はないのに、人を傷付けることを言ってしまう。野球部に入部しましたが、気が付くと、キャッチボールをしてくれる相手がいなくなっていました。

周囲との壁に悩み、周りとの関わりを持つことが辛くなりはじめました。部活も辞め、家と学校の往復だけの生活。授業でも苦手な教科ではついていくのが難しくなりました。大学には進学しましたが、友達にカラオケや食事誘われても、新しい場所に行くことが



仲間と一緒に働けることがうれしい

苦手なために、だんだん誘われなくなりしました。

大学を卒業した後、3年間はひきこもりになってしまいました。家でゲームをしたりマンガを読んだり。僕自身も辛かったけど、悩んでいる両親を見るのも辛かったです。

そんなときテレビで、ひきこもりの青年が子どもたちと関わることで変わっていく番組を見ました。そして藤岡市のNPOで募集していた児童館のボランティアに思い切って応募しました。

児童館での初日、気が付いたら子どもたちが自分によじ登ってきちゃったんです。人に当たってきちゃったんです。人に当たってきちゃったんです。人に当たってきちゃったんです。人に当たってきちゃったんです。

正直ほっとしました。自分が抱えてきた周囲との違和感の原因が分かったからです。ただ両親は認めたくないようでした。自分の子どもに障害があることを受け入れたくなかったのかもしれない。

誰かの役に立ってほしい

子どもたちと過ごしている中で、少しずつ表に出ていけるようになり、現在の職場で働けるようになりました。今はここに通ってくる子どもたちの支援に生きがいを感じています。子どもと一緒に、体験を共有している時間が楽しい。ただ、周囲と上手にコミュニケーションを取ることは相変わらず難しいです。でも僕を理解してくれるスタッフがいます。子どもたちの家族にも、僕がこうして働いていることで、心強くなってもらえることもうれしいです。

講演会で自分のことを話すようになったのは、アスペルガーについてみんなに理解してほしいからです。自分が前に出ていくことで、同じような立場の人の役に立ちたい。

もっと早い時期に自分の障害が分かればまた違う生き方ができたかもしれません。子どもたちは、自分にブレーキをかけることなく、自信を持って生きてほしいと思っています。

Q どんなときに相談をすればいいの？

A 育児が大変だなあと感じていたら

乳幼児期の発達には個人差があり、多くは心配のないものです。しかし「うちの子は周りと違う」と感じたら、早めの相談をお勧めします。市こども発達支援センターは、乳幼児の早い時期からの相談を受け付けています。

Q 発達障害と診断されたら、どうしたらいいの？

A 得意なことを伸ばしてあげてほしい

大切なのは一人一人の個性を見極めて必要な支援を行うことです。よくできたことは褒めて自信を持たせると能力を発揮していきます。

有賀先生から発達障害の君へ



悔しい思いや寂しい思いをすることもたくさんあると思います。でも決してあきらめないでほしい。頑張っていれば必ず理解し応援してくれる人が周りにいます。君が輝ける舞台はきっとどこかにあるのですから。

先生、もっと教えて



発達障害について有賀先生がよく受ける質問をまとめてみました。

Q 発達障害の原因は何ですか？

A 環境や育て方によるものではありません

脳機能のなんらかの障害と考えられていますが、原因ははっきりしていません。本人の努力不足や育て方が原因で起こるものではありません。



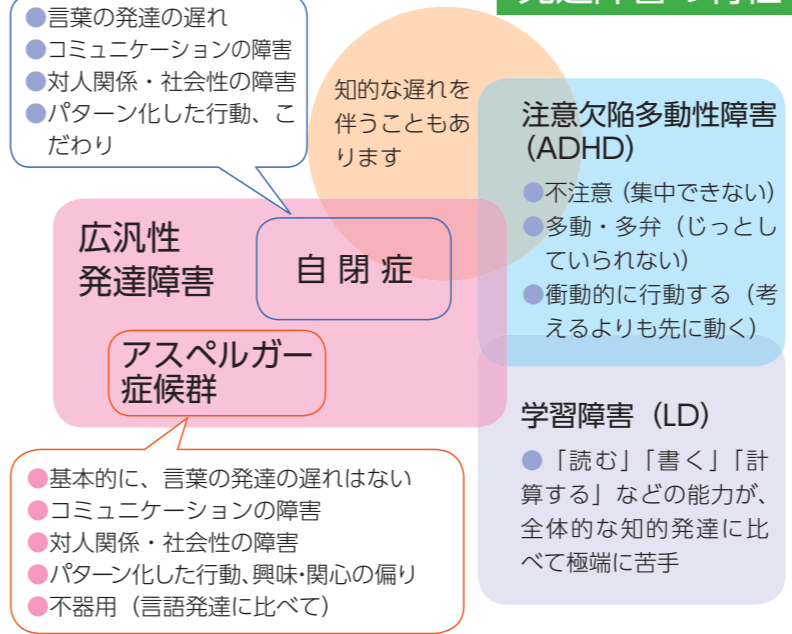
Q 発達障害の子はどんなことで困るの？

A 周囲から誤解を受けやすいのです

発達障害の子どもたちが苦手なことの一つに、コミュニケーションをとることがあります。自分の思いを伝えられないために「自分勝手な子」、「切れやすい子」などと思われることがあります。周囲の理解があれば子どもが生きやすくなります。

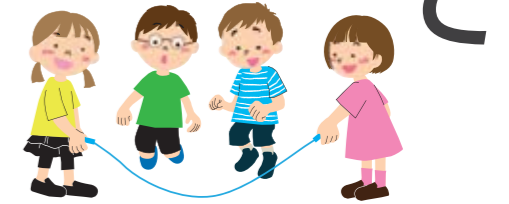


発達障害の特性



先生、発達障害って何ですか？

文部科学省によると、小中学校のクラスの約6%の子どもたちが、発達に何らかの課題があるという報告もあります。身近なこの障害がどんなものなのか、児童精神科医の有賀道生さんに話を聞きました。



有賀 道生さん
プロフィール
国立のぞみの園診療所長、児童精神科医。児童・思春期の子ども心の健康や、発達障害、不登校・引きこもり・非行などに悩む子どもたちを医療の現場から支える。市こども発達支援センターで相談業務に当たる専門医の一人。

発達障害には、自閉症、アスペルガー症候群、ADHD、LDなどがあります(上図参照)。集団行動が苦手、コミュニケーションが取りにくい、落ち着かない、計算などが特に苦手など、その特性は一人一人違います。また、いくつかの特性を合わせ持つケースが多いことや、問題となる特性は誰にでもあり得ることなので分かりにくいということが特徴です。

発達障害という言葉が使われ出したのは、10年ほど前からです。この障害を社会全体で支えようと、平成17年には発達障害者支援法がスタートしました。しかし、この障害についての理解はまだ十分ではありません。診療所に来る家族は、みんなうなだれた様子で入ってきます。

発達障害には、自閉症、アスペルガー症候群、ADHD、LDなどがあります(上図参照)。集団行動が苦手、コミュニケーションが取りにくい、落ち着かない、計算などが特に苦手など、その特性は一人一人違います。また、いくつかの特性を合わせ持つケースが多いことや、問題となる特性は誰にでもあり得ることなので分かりにくいということが特徴です。

発達障害には、自閉症、アスペルガー症候群、ADHD、LDなどがあります(上図参照)。集団行動が苦手、コミュニケーションが取りにくい、落ち着かない、計算などが特に苦手など、その特性は一人一人違います。また、いくつかの特性を合わせ持つケースが多いことや、問題となる特性は誰にでもあり得ることなので分かりにくいということが特徴です。

ひきこもりや非行、暴力などの二次的な問題を引き起こすことがあります。幼児期の早い時期から適切な支援を行い、子どもが自信を持てるようになれば、こうした問題を防ぐことができます。さらにその子の才能を最大限に引き出すことができます。

子どもに自信や安心感を与え、健やかな発達を促すために子どもとのコミュニケーションはとても大切です。毎日一緒に過ごしている親の一言がどれほど大きく子どもの心に響くか、知ってほしいと思います。

市のこども発達支援センターができたことで、私たち医療関係者や地域の人たちなど、多方向から子どもたちを支えることができるかと期待しています。

インタビュー
教育委員会に聞きました

こども発達支援センターと連携して支援を

市教育委員会 指導主事 飯島 好行さん

こども発達支援センターができたことで、就学前から子どもへの支援ができるようになりまし。早い段階で支援を行うことで、子どもたちの学校生活への適応がよりスムーズになると思っています。

教育委員会では、これまで学校や通級指導教室、教育センターなどが連携して、障害のある児童生徒と保護者の支援に取り組んできました。今後はこども発達支援センターとの連携も図りながら、子どもたちが生き生きとした学校生活を送れるよう、共に支援していきます。





プロフィール
若者の就労支援や発達障害の子どもの療育、家族のサポートなどを行う。市こども発達支援センター臨床心理士。ぐんま若者サポートステーション相談員。

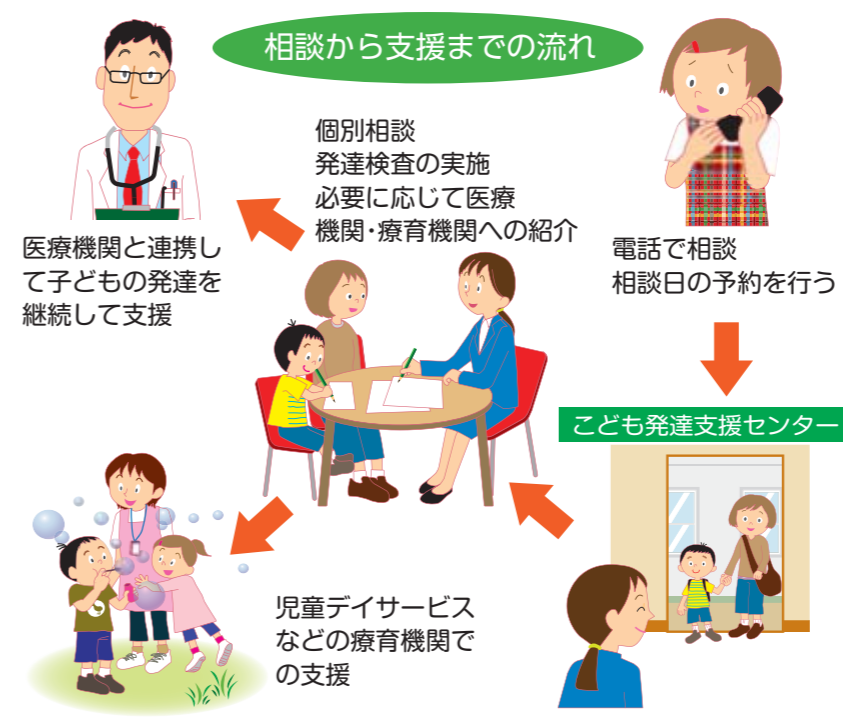
インタビュー

未来に向かって伸びる子どもたちの力を信じて

NPO法人リンケージ理事長 石川 京子さん

将来の自立のために、必要な支援を
若者の就労支援をしている中で、発達障害に対する周囲の理解が必要だと痛感しています。障害に気付かず成長し、就労への高い壁に悩む若者もたくさん見えています。私たちは、そんな若者が地域社会の一員として自立して生きていけるよう支援しています。そのためには本人の得意なこと、不得意なことなど一人一人の特性を理解し、幼児期なるべく早い時期から必要な支援を行うことが大切です。子どもは遊びの中で楽しみながら、発達していく部分を補うことができるからです。おもちゃで遊ぶことで指先の動きを促したり、ゲームをしながら順番や

家族を支えることが子どもを支えること
私たちの運営する発達支援ルームでは、幼児期から18歳までの子どもたちが個別のプログラムに基づいて学んでいます。スタッフは遊びや学習をとおして無理なく学んでいけるよう支援しています。ここに通ってくる中で、家族も子どもの特性を知り、子どもの行動の意味が分かるようになると、大らかな気持ちで育児ができるようになります。家族が安心すると子どもも変わります。どの子も自ら発達していく力を持っています。その発達はおもしろく感じたり、ほかの子とは違っていたりするかもしれない。私たちはその個性を生かし自立できるように、お手伝いをしていきます。



センターの職員は臨床心理士、保健師、保育士など

市こども発達支援センターでは臨床心理士や言語聴覚士、作業療法士、保健師、医師などの子どもの発達に不安がある家族の相談に乗り、支援やアドバイスをしています。必要に応じて医療機関や療育施設を紹介す

気軽に相談してください
市こども発達支援センター
市は今年4月、こども発達支援センターを市役所4階に開設しました。生活や学習面で困っていたり、つまづきを抱えていたりする子どもたちや家族を、地域の人たちと共に支えていきます。問い合わせは、同センター（☎321-1351）へ。

市こども発達支援センターではこんなことをしています

●問い合わせ先=市役所4階こども発達支援センター(☎321-1351)

専門家による相談を受け付けています
いずれの相談も会場は、こども発達支援センターです。対象は市内に在住の15歳以下の子どもとその家族、費用は無料です。

臨床心理士による相談
●日時=毎週月～金曜日、午前9時～午後4時 ●内容=子どもの発達について気になることの相談

作業療法士による相談
●日時=7月27日(水)、8月24日(水)午後1時30分～午後4時30分 ●内容=体の動き、運動面の遅れ、歩き方のぎこちなさ、手先の不器用さなどの相談 ●定員=3人(予約制)

言語聴覚士による相談
●日時=7月22日(金)、8月12日(金)、26日(金)午後1時

30分～午後4時30分 ●内容=言葉が遅い、不明瞭、吃音などの相談 ●定員=3人(予約制)

発達障害を理解し、支えるため講演会を開催します

●日時=7月8日(金)午後2時～4時 ●会場=市総合保健センター 2階第1会議室 ●内容=国立のぞみの園診療所長・有賀道生さんの講演「発達障害ってなあに～気づき、そして支援について」 ●定員=200人 ●講師は有賀先生です ●入場料=無料 ●申し込み=7月5日(火)までに、電話でこども発達支援センターへ



るほか、幼稚園、保育所(園)、小中学校などと連携を取りながら、子どもたちが生き生きと生活や学習ができる環境をつくっていきます。そのためにセンターの職員は、市内の幼稚園や保育所(園)、学校などを巡回し、子どもたちの様子を見守りながら、保育士や教職員、保護者への支援を行っています。発達障害は、幼児期から支援を行っていくことで将来の負担を軽くすることができると、同センターは乳幼児期から中学卒業まで、一貫して子どもの発達を支援します。発達障害の子どもの成長の中で日常生活や学習、進路などさまざまな課題にぶつかりやすいため、その課題を乗り越えていくためにどうすればよいかを、本

輝く個性をみんなで支えていくために
発達障害は周囲の理解と支援が何より大切です。センターでは、正しい知識を家族や支援者、地域の人たちに広め、みんなで支えるための講演会や研修会を開催しています。発達障害のある子も、そうでない子も、それぞれの個性を大切にしながら自分らしく生きていけるよう、センターはその役割の一端を担っています。まずは相談することが第一歩。子どもの発達に不安を感じたときは、家族だけで悩まず気軽に相談してください。

インタビュー



市こども発達支援センター臨床心理士 久保園 敏明さん

安心して育児ができるようにサポート

群馬整肢療護園で、障害を持った子どもたちに療育を行ってきました。市のこども発達支援センターができ、私も同センターで子どもたちの発達相談を受けています。身近に窓口ができたことで、保護者が相談しやすくなったと思います。相談に来たことで、安心して育児ができるようになったらうれしいです。